

2020年度学生ボランティア主な活動

活動名	活動概要	団体名	形態	活動日	参加学生数
行政・関連団体からの依頼					
グローバル MICE フォーラム	会議の運営補助	公益財団法人横浜観光 コンベンション・ビューロー	単発	12月15日(火)	4名
よこはま教育実践ボランティア	市立小・中学校での授業サポート等	横浜市教育委員会	継続	4月～3月	1名
金沢消防団	地域に密着し住民の安心と安全を守る	金沢消防署	継続	4月～3月	8名
地域団体からの依頼					
チャリティーサンタ	クリスマスに子どもたちに プレゼントを届けるサンタクロース活動	NPO 法人チャリティー サンタ横浜支部	単発	12月24日(木)	1名
横浜いろは塾	寄り添い型学習支援事業生活支援事業	認定NPOコロナプスアカデミー 横浜いろは塾	継続	火・金 16:00～20:00 土 11:00～18:00	2名
アンガージュマン・よこすか	中学生に対する個別学習支援	NPO法人アンガージュマン・ よこすか	継続	月・金 18:00～21:00	2名
わたぼうし教室	外国にルーツのある 子どもたちの学習支援	わたぼうし教室 横浜	継続	毎週土曜 10:00～12:00	2名
横浜市立大道中学校放課後学習会	横浜市放課後学び場事業	横浜市立大道中学校	継続	15:20～16:30	2名
むうたん塾	放課後の学習支援サポーター	横浜市六浦地域ケアプラザ	継続	毎週木曜 16:30～20:00	2名
はばたき教室つばさの会	保土ヶ谷区寄り添い型学習支援	NPO法人リロード	継続	水金土 18:00～20:00	3名
おっちー塾	不登校・外国につながる 子どもへの支援活動	おっちー塾	継続	火木 16:00～18:00 土 13:00～15:00	1名
中原わくわく学習会	学習支援・居場所づくり、 川崎市委託事業「中原わくわく学習会」	NPO法人キーパーソン 21	継続	火～金 18:20～20:50	1名
学内からの依頼					
留学生対象日本語授業	留学生対象日本語授業ボランティア	横浜市立大学 鈴木綾乃特任准教授	継続	4月～1月	12名
前期履修相談会サポーター	オンライン履修相談会のサポート	ボランティア支援室 学生スタッフ Volunch	単発	5月6日(水)、9日(土)	12名
後期履修相談会サポーター	オンライン履修相談会のサポート	ボランティア支援室 学生スタッフ Volunch	単発	9月18日(金)	3名
入院児のベッドサイド家庭教師	院内家庭教師及び 小児病棟向けイベント企画	医学部学生団体 one by One	継続	3月～	25名



2020 横浜市立大学 ボランティア支援室 報告書



公立大学法人横浜市立大学ボランティア支援室 2021年3月発行

横浜市立大学 ボランティア支援室
〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
YCUスクエア1階カウンター & 2階S27 「Volounge」
Tel:045-787-2444 Fax:045-787-2093
Mail: volunteer@yokohama-cu.ac.jp



ボランティア支援室 HP ボランティア支援室 FB ボランティア支援室 Twitter

2020年度 ボランティア 支援室の活動



2020年度、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ほぼすべてのボランティア活動は中止となりました。ボランティア支援室では、学生スタッフVolunchとオンラインで話し合いを進め「コロナ禍でもできることはないか?」「現状の課題はなにかな?」を探り、

- ① 依頼がないのなら、自分たちで活動を生み出そう
- ② 「外」で活動できないのなら「内」に目を向けると、新入生に大きな課題がある、という2点に注目し、それらの解決方法を探しました。

コロナ禍で 何が出来るか?

■新型コロナウイルス感染拡大に対する初期対応

5月にオンライン授業が開始し、7月からはルールを決めて段階的に課外活動が再開されました。ボランティア支援室でも独自のルールを決め、学生のボランティア活動を再開し、8月にはVolunch発案による対面の「フードバンク・ボランティア」を行いました。

孤立しがちな1年生のためには、先輩学生による「ヨコイチ・トークルーム」を立ち上げました。Volunchの上級生が、新入生からの質問や相談、おしゃべりなどに1対1のオンラインで対応して、不安や疑問を軽減することが目的です。

一方、団体の活動状況を把握するため、8月に「学習支援」「子ども支援」「障害児者支援」の58団体にアンケートを依頼しました。45団体から回答があり、38団体が何らかの方法で活動中とのこと。学生を受け入れている37団体のほとんどは「学習支援」を行っている団体でした。子どもの成長は止まることがなく、引き続き支援が必要であるということが明らかになりました。

■後期は「学習支援活動」「医療系地域貢献活動」のサポート強化

後期に入ると学生の入構が許可され、一部対面授業も再開されました。活動自体は未だイベント系ボランティアの依頼はなく、アンケートの結果から「学習支援活動」の強化を図るべく、10月には学習支援説明会を開催しました。また、病院ボランティアに関心のある学生や医療従事者に感謝を伝えたいという学生に呼びかけ「病院ボランティア」を考えるプレストを、8月から毎月1回/計4回行いました。学部・学年を超えたメンバーが集まり、現在「コロナ禍でもできるボランティア」を考え活動中です。ほか

にも医療系の学生団体が活発に活動しており、このような団体の活動を全市大生に知ってもらい、皆で連携・協力し合えるような関係にしていきたいと思っています。

後期半ばになると少しずつ「対面ボランティア」の依頼が入り始め、12月には「第2回横浜グローバルMICEフォーラム」が開催され、4名の学生がボランティアに参加しました。2020年度唯一の国際級イベントとなりました。

■2度目の「緊急事態宣言発出」を受けて

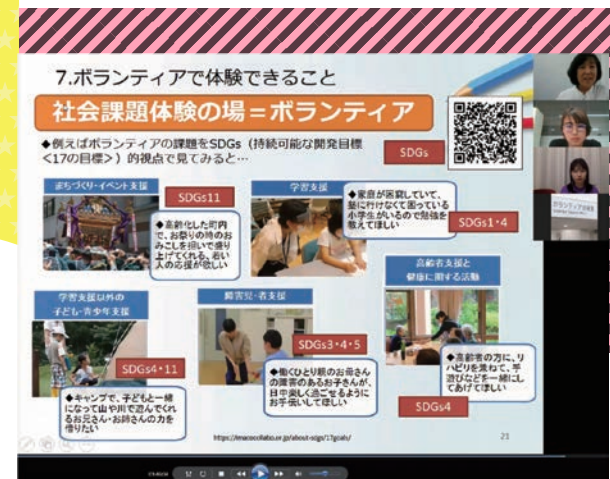
2021年早々に再び緊急事態宣言が発出され、授業もまたオンライン、課外活動も中止に。そこで1月から週1日「オンライン★ボラ室」を開設し、コロナ禍明けに向けて活動準備を進めたいという学生のニーズに応えています。



2020年度におけるボランティア支援室の活動は、①世の中の流れから目を離さず ②授業や課外活動がオンラインに変更された分、学生が今置かれている環境や心理面に対する想像力を働かせ ③その場その場で変化する状況を柔軟に受け入れながら ④学生第一で支援していくことが求められた1年でした。

ボランティア 支援室の取組

ヨコイチ・ トークルーム



●オンラインの新入生相談窓口

登録サポーター：4名

2020年度の新入生は入学式もオリエンテーションもなく、5月からの授業はオンライン、大学にも入れない状況でした。友人や先輩とふれあう機会もなく、感染症に対する恐怖や不安もあり辛い状況だと考えられました。アルバイトも募集自体が減り経済的にも困窮するなど、アンケートで窮状を訴える学生の声が多数ありました。「ヨコイチ・トークルーム」は、先輩がさまざまな質問・相談にオンラインで応えてくれる相談窓口です。学生サポーターの後方には職員が待機し、必要があればすぐに担当の職員につなぐ体制を整えています。



ボランティア 支援室の取組

ボラ×キャリア ワークショップ

●ボランティア支援室主催キャリア講座

開催日：2020年10月20日(火)

参加者：12名

2020年は、ボランティア活動で得た経験を言語化→文字化するワークショップにSDGsの要素を取り入れ、オンラインで行いました。

「ボランティア活動は、社会課題に向き合いそこに関わるさまざまな立場・環境の人たちと力を合わせて課題を解決する実践の場でもあり、自己形成支援の効果がある」という考えのもと、ボランティア活動の経験を自分自身のキャリア形成(職業選択・就活等)に役立ててもらうことを目的としています。

ボランティア支援室の取組

スタートアップ補助金事業

地域貢献活動のスタートアップを応援する補助金事業

2020年度から、本学の学生団体がボランティアや地域貢献活動を行う際のスタートをサポートする「YCU ボランティア・スタートアップ補助金」の募集を開始しました。下記の2団体から申請があり、採択されました。どちらの団体も、医学部はもちろん、さまざまな学部の学生が集まって活動中です。

『病院ボランティアを考える会』

●折り紙プロジェクト

参加者：7名

コロナ禍でもできるボランティアで、入院患者に余暇を提供するとともに、医療従事者に対する感謝を伝えることを事業の目的としています。横浜市立大学附属センター病院の入院患者1000人に折り紙キットを配付し、モザイクアートを作成・公開するプロジェクト。

※コロナ禍のため院内に入らず、キットを制作したところで現在待機中。

ありがとうの
アートがある!

活動費を
サポート!

『one by ONE』

●院内・オンライン家庭教師および小児病棟向けイベント企画

参加者：12名

事業目的は入院中の子どもたちに“学ぶ機会”を提供するとともに、楽しいと思える体験ができるイベントの企画。附属病院やその他病院でのオンライン家庭教師事業および、定期的なイベントを実施していきます。

●似顔絵イベント 『one by ONE』

開催日：3月6日(土)

場所：横浜市立大学附属病院

参加者：イベント参加者/11名、
学生ボランティア/9名

コロナ禍によって面会が制限される中、入院中の患者さんが家族との繋がりを再確認できるようなイベントを企画しました。

患者さんご家族(病室+ご自宅)と団体メンバー、絵描きさんがZOOMを使用

し、絵描きさんがお話ししながらご家族の似顔絵を作成。完成後は写真に現像し、写真立てに入れてご家族に直接お渡ししました。



Volunchの活動

2020年度 Volunchの活動振り返り

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、当初に予定されていた企画の多くが中止に追い込まれた中で、新しい取り組みや工夫を求められた一年でした。まずは横浜市に入学した新1年生の不安を少しでも取り除くため、前期と後期の2回「オンライン履修相談会」を行いました。そして「前期履修相談会」を皮切りに、新たに「フードバンク・ボランティア」や「学習支援ボランティア」のほか、Zoomなどのオンラインを駆使して、2回の「他大学交流」企画を行いました。

2020年度の活動を通じて、新型コロナウイルスは私たちの生活を大きく変え、さらには例年行っていたボランティアにも大きな影響を及ぼしました。しかし、このような状況でもZoomなどを活用すれば、困っている人たちに対してもっとできることがあったはず。2020年度は例年どおりには活動ができませんでしたが、「コロナ禍だからこそできること」をもっと考えて活動すべきだったと思います。2020年度はそこまで多くの活動を行えなかったという反省を踏まえて、2021年度はもっと新しいことにチャレンジをし、Volunchがより飛躍していく年にしたいと思います。(2年 鬼沢史弥)



Volunchの活動

オンライン交流会

●「大阪府立大学ボランティア・市民活動センター V-station」学生スタッフオンライン交流会

開催日：2020年8月30日(日)

参加者：大阪府立大学学生スタッフ/6名、Volunch/3名

8月30日、「大阪府立大学ボランティア・市民活動センター V-station」の学生スタッフとオンライン上で、ボランティアに関する意見交換のための交流会を行いました。この交流会は、私たちに良い刺激をくれました。コロナ禍前、大阪府立大学では、地域を越えて幅広いジャンルのボランティアに取り組んでいたからです。私たちは、大学のある横浜市金沢区を中心とするボランティア活動を多くやってきましたが、この交流会を通して、必要とされているボランティアは地域によってさまざま、地域を越えて活動することが、各地域の活性化にもつながると、改めて気付きました。(2年 板垣夏実)



ZOOM上で交流!!

●「フェリス女学院大学ボランティアセンター」学生スタッフオンライン交流会

開催日：2020年12月27日(日)

参加者：フェリス女学院大学学生スタッフ/6名、Volunch/5名

「フェリス女学院大学ボランティアセンター」学生スタッフとの交流会では、アイスブレイクの後、ワークショップとコロナ禍での活動について情報交換しました。

ワークショップでは『コンセンサスゲーム』という、答えの決まっていない問いに対して、グループ全員の意見を一致させるゲームを行いました。初対面の人もいる中、全員の意見をまとめることは自分にはない考え方に触れることができ、楽しかったのですが難しくもありました。

人と話すことは新しい情報を得るだけでなく、自分の考えをまとめて人に伝えることで、自分自身はどう思い何を感じているのか整理できると思いました。交流会を通して、コロナ禍で減っている人との関わり大切さを、改めて実感できました。(2年 中田 留宙)



オンラインでつながろう!

Volunchの活動

オンライン履修説明会・相談会

【前期オンライン履修相談会】

開催日：5月6日(水・祝)、9日(土)

参加者：5月6日(水・祝)1年生/146名、9日(土)1年生/54名

運営・進行：Volunch/15名、一般学生ボランティア/12名

【後期オンライン履修説明会・相談会】

開催日：全体説明会/9月18日(金)

個別相談会/9月23日(水)～10月5日(月)

参加者：全体説明会/1年生73名、個別相談会/1年生17名

運営・進行：Volunch/24名

2020年度は履修への不安を抱えている新入生が多いということで、Volunchでは前期と後期にオンライン履修相談会を行いました。特に後期は、新メンバーと上級生の力を結集し、全体説明会と個別相談会の2本立てで行いました。全体説明会は上級生の時間割と体験談を提示し、事前に1年生から寄せられた質問に答えながら、不安に寄り添った対応ができました。

個別相談会は「必修や選択必修の履修が合っているのか見てほしい」という完全パーソナルな相談の対応です。2020年度はコロナ禍で前期は完全オンライン授業だったので、進級要件を満たしているかどうか相談できる友だちがいないという1年生のために、先輩と話しながら相談できる<Zoom相談>と、文面で相談できる<メール相談>で対応しました。オンラインでしか大学生活を経験していない1年生には、学務や教務へ電話やメールで質問することはハードルが高いと思われたので、Volunchが同じ学生という立場で仲介役を果たせました。

Volunchとしては、全員で取り組めたことで交流も深まり、皆が自発的に行動し成長できた企画になったと感じます。(3年 加藤奈那華、2年 足立萌黄)



ブラインドサッカーの紹介

開催日：2020年12月20日(日)

場所：横浜市立盲特別支援学校

参加者：Volunch/撮影3名、編集3名

横浜市の Youtube ページに掲載する、ブラインドサッカーを知ってもらう動画づくりのために、神奈川県唯一のブラインドサッカーチーム「buen cambio yokohama」の練習を訪問し、練習風景やインタビューを撮影しました。プレーヤーの方からも撮影方法や練習の提案をいただきながら、より迫力のある映像撮影に取り組みました。その後、編集チームがルール解説、音楽、字幕などを加えて編集し、動画が完成しました。

初めてブラインドサッカーを実際に見たのですが、アイマスクを付けたプレーヤーと、キーパーやガイド、監督との連携が素晴らしかったです。想像していたより激しいスポーツで、目隠しをした状態にもかかわらず、まるで見えているかのような機敏なプレーは圧巻でした。チームの方々へのインタビューを通して、ブラインドサッカーの楽しみ方や魅力について知ることができました。(1年 屋嘉比夏己)

Volunchの活動

オリパラ企画 Youtube 動画撮影・編集

心で感じてつながろう!





Volunchの活動

フードバンク・ボランティア

新型コロナの感染拡大により
支援を必要とする人のために
できること

開催日：2020年8月7日(金)、8月10日(月・祝)
場所：公益社団法人フードバンクかながわ
参加者：一般学生 / 11名、Volunch/3名

フードバンクかながわは、十分に安全でありながら廃棄される予定の食品ロスを、事業者からの寄付、フードドライブ、災害備蓄品の寄付などから集め、地域のフードバンクや社会福祉協議会、こども食堂、福祉関係施設などに提供している団体です。

当日の作業内容は米の再精米と袋詰め、一般の方から提供された食品の仕分けでした。米の再精米は専用の機械を使い、短時間で多くの米袋を用意できました。また、食品の仕分けでは、寄付された食品を主食、副食、嗜好品などに分類し、重さと個数を調べた後、賞味期限別に棚に陳列します。ペット用の食品が混ざっていないか、封が切られていないかもチェックしました。

今回の活動を通して食品ロスや貧困の内情を知るとともに、これらの問題やあらゆる大きな問題はフードバンクのような仕組みや制度と、一人ひとりの意識とが相互に作用することで、解決し得るのではないかと感じました。(2年 揚妻 幸歩)



Volunchの活動

ボラツア-2020

「学習支援ボラツア-むうたん塾」

「今」だからこそ、子どもたちを支えたい!

開催日：2020年9月17日(木)、9月24日(木)、10月8日(木)

場所：六浦地域ケアプラザ「むうたん塾」

参加者：一般学生 / 5名、Volunch/5名

六浦地域ケアプラザで活動している「むうたん塾」に伺い、子どもたちへの学習支援をしました。小学生の部と中学生の部に分かれ、1対1で学習を見ました。感染対策として、フェイスシールドやマスクの着用、事前の検温、アルコール消毒なども万全でした。

小学生の部で担当した5年生の子は漢字に取り組んでいましたが、間違えて覚えていた書き順を正してあげるには、どのように指摘すればよいのか戸惑う場面が多々ありました。他の参加学生も、どんな言葉を使えばわかりやすく伝わるか、どう表現すればモチベーションが下がらないかなど、コミュニケーションについて考えさせられることが多かったようです。

中学生の部では大学生との会話に照れてしまう子が多く、慣れるのに少し時間がかかりましたが、話していくうちに学習以外の様子なども話してくれるようになり、楽しくサポートできました。アルバイトで中学生を教えている学生も「ほめてあげることは大切。今後子どもたちに教える際には、ほめてあげることを意識したい」と話してくれました。(3年 長島 ゆりか、2年 富永 遥香)



※ボラツア-とは
横浜市立大学の学生が
ボランティアを始めるきっかけを
得ることを目的とし、
ボランティア支援室の学生スタッフと一緒に
ボランティア活動を行う
Volunchによる企画



開催日：2020年12月15日(火)、8:30～12:30
場所：パシフィコ横浜ノース
主催：公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー
参加者：一般学生ボランティア / 4名

2度目の緊急事態宣言が発出される直前の2020年12月15日(火)、パシフィコ横浜ノースにてコロナ時代のMICEイベント(企業等の会議や研修、国際会議、展示会等)を考える「第2回横浜グローバルMICEフォーラム」が開催され、本学から4名のボランティアが参加し、来場客の案内・誘導など大会運営のお手伝いをしてきました。新型コロナの感染拡大で当日の会場参加者は国内参加者のみ。ボランティアの4名はマスクのほかにフェイスシールドなど感染対策を徹底して活動しました。

また、この日の午後及び翌日16日には「第2回ICAAアジアパシフィックサミット2020」が同会場で開催され、ボランティアの参加者はそのまま会場にて、横浜の誇る国際会議(主に英語で進行)の現場を生で見る事ができました。



Speak English!



Volunteer活動

「第2回横浜グローバルMICEフォーラム」ボランティア

コロナ時代を見据えた
「MICEを考えるフォーラム」
でヨコイチ生が活動

Volunteer活動

キャンパスタウン金沢

2020年度は本学から5団体が採択!
オンライン中心に地域貢献活動

横浜市立大学と関東学院大学、金沢区が連携した「大学の活力を生かしたまちづくり「キャンパスタウン金沢」」の横浜市立大学の事務局を、ボランティア支援室が担っています。2020年度は以下の5団体が、金沢区に活動助成金を申請し採択されました。コロナ禍でできることも制限されましたが、オンラインを使うなど工夫しながら、それぞれの課題に取り組みました。



2020年度採択団体	
齋藤ゼミ	金沢区瀬戸3丁目付近の空き家のDIYによるリノベーションの取組
ちちんぷいぷい	病気と闘う子どもやきょうだい児への手作りおもちゃの差し入れ
三輪・中西ゼミ	つながる横浜金沢シーサイドプロジェクト
三浦半島研究会	「三浦半島マルシェ in 金沢区」の実施事業
CEBA(シーバ)	大学周辺の飲食店等を紹介する動画「横市ック天国」による地域活性化

